

■ 言葉の解説（時の鐘の銘文）

寛文十一年	かんぶんじゅういちねん 江戸時代前期の年号。西暦1671年。この年の江戸幕府の将軍は四代将軍徳川家綱。
辛亥	かのとい 「干支・えと」と呼ばれる、年や日を表す符号のようなもの。10干と12支を組み合わせると60通りがあります。「今年はずみ歳だ」などというときの「はずみ」が12支にあたります。この銘文の「辛亥」は、寛文11年という年が、「辛(かのと)」「亥(い)」の年であったことを意味しています。なお、歴史上有名な中国の「辛亥革命」(しんがいかくめい。中国を統治していた清王朝を倒し、中華民国を成立させた革命)は、寛文11年の240年後＝60年周期の4サイクル後の出来事です。
予州刺史	よしゅうしし 古代から近世まで、日本の国土は「国」という行政単位に区分されていました。予州は、伊予国のこと、概ね現在の愛媛県の範囲です。日本の地方制度の「国」は中国の「州」に相当するとの考えから、「国」名から一文字をとって「州」を合わせて中国風の呼び方をすることがありました。ちなみに、さいたま市は大部分が武蔵国に属していましたが、武蔵国を中国風に呼ぶ場合には「武州」といわれました。 刺史は「しし」と読みます。中国で州の行政官をこう呼びました。日本の制度では、「国」の長官である「守(かみ)」に相当すると考えられました。上の「予州」とあわせて、伊予守のことを指しています。なお、この時代の〇〇守などの官職名は、武士などの格式を表す名乗りの一種となっており、阿部正春が伊予国行政に携わっていたわけではありません。
阿部正春	あべまさはる 寛文11年当時の岩槻城主。阿部家は寛永元年(1624)から天和元年(1681)まで5代57年間岩槻城主であり、正春はその4代目。万治2年(1659)から寛文11年12月まで城主の地位にあり、11万5000石を領しました。
冶工	やこう 金属加工を行う職人の総称。

<p>渡辺近江掾正次</p>	<p>わたなべおうみのじょうまさつぐ 江戸・浅草(東京都台東区)の鋳物師(いもじ。金属を溶かして型に流し込んで製品をつくる鋳物の職人)の名工。父の渡辺銅意とともに制作したという江戸城の銅製鯨(東京国立博物館所蔵)などの作品が伝わっています。 近江掾は、先の予州刺史と同じく、近江国(滋賀県)の行政官のうちの三等官である「掾」(じょう)を指しています。これも、官職としての実質はなく、鋳物師としての格式を表しています。</p>
<p>江都</p>	<p>こうと 江戸のこと。</p>
<p>小幡内匠勝行</p>	<p>おばたたくみかつゆき 江戸の鋳物師。かつて増上寺(東京都港区)にあった将軍徳川家の霊廟の銅製灯籠をつくるなど、江戸時代中期の江戸を代表する鋳物師でした。 内匠とは、朝廷の内匠寮(たくみりょう)という役所こと。長官の頭(かみ)、次官の助(すけ)以下、職位がありますが、ここでは略されています。これも〇〇守などと同じく、官職としての実質はなく、小幡勝行の通称として用いられています。なお、内匠を名乗った有名な人物としては、「忠臣蔵」に登場する播州赤穂城主浅野内匠頭長矩(あさのたくみのかみながのり)がいます。</p>
<p>享保五歳次庚子</p>	<p>きょうほうごさいじかのえね 享保五年のこと。江戸時代中期の年号。西暦1720年。この年の江戸幕府の将軍は八代将軍徳川吉宗。歳次は年のめぐり、干支のめぐりをさし、庚子とセットです。ちなみに、令和2年(2020)の干支は庚子です。</p>
<p>伊豆守大江姓 永井氏直信</p>	<p>いずのかみおおえせいながいしなおのぶ 現在の鐘が鋳造された享保5年当時の岩槻城主。永井家は正徳元年(1711)から宝暦6年(1756)まで3代45年間岩槻城主であり、直信はその3代目。正徳4年から宝暦6年まで城主の地位にあり、3万2000石を領しました。江戸詰めで幕政に参与し、のちに幕府の要職である奏者番(そうじゃばん)を務めました。時の鐘改鋳の前年、はじめて領地に赴くとまを賜り、岩槻城に入りました。直陳の名が知られていますが、これはのちに改名したもので、享保5年当時は直信を名乗っていました。「大江姓」は、源氏・平氏・藤原氏などとならぶ姓です。永井氏は鎌倉幕府創立の功臣・大江広元の子孫と称していました。「永井氏」は、苗字・家名にあたるものです。</p>